

城のある都市復活

福岡城だより

2011.4

APRIL

No. 29



『夜桜爛漫』(萩尾 稔氏撮影) 写真提供:福岡市緑のまちづくり協会

観光資源としての

福岡城跡・鴻臚館

福岡市長 高島 宗一郎



のため、国宝の金印に代表されるように、国内外に誇ることができる先人からの歴史的遺産が多くあります。

古代の迎賓館として栄えた「鴻臚館」跡もその一つです。現在、福岡市では発掘調査を進めています。旧平和台球場南半分については、調査成果を市民の皆様に還元するため、遺構・旧地形の平面表示を主とした暫定整備を進めております。

今後は国史跡「福岡城跡」のある舞鶴公園を、西側に広がる大濠公園とともに、多くの観光客の方々に魅力的に映る観光資源として、また市民の皆様の心をなごませる都会のオアシスとして、積極的に活用してまいりたいと考えております。

わたしはこのまちに、大変、愛着を感じております。福岡市ほど人と環境と都市が調和のとれているまちはほかにありません。これは、多くの先輩の方々の長年に渡るご努力の結果であり、心より敬意を表するものであります。今後は、アジアのリーダー都市を目指し、「福岡のまちに元氣を取り戻したい」という熱い思いをもって、市民と行政が足並みを揃えた「市民が共感できる市政」を目指し、歴史と文化を大切にしたまちづくりに誠心誠意、全力を尽くして取り組んでまいりますので、今後ともなお一層のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

「お城が見える・福岡城散策マップ」を作成!!

福岡城跡は、昭和32年に国指定の史跡になりました。福岡市の中心にありながら、広大な福岡城跡地は市民への存在感が薄く観光資源としても活かされていないのではと感じています。

壮大な石垣が存在しながら建築物が大半失われて、ほとんど復元されていない事や樹木が茂りすぎている為、城跡が分かりにくくなっています。来訪者に在りし日の福岡城を偲ばせるような案内板もなく、城跡を案内するマップが無いままで今日に来てしまいました。

今回「福岡城400周年記念委員会」が7年前に作成された「福岡城散策マップ」を基に、往事の櫓や天守閣・本丸御殿・門などが髣髴させられる、わかり易い解説付きの散策マップを作成しました。



下の橋大手門



伝潮見櫓



〈福岡城散策マップの一部を掲載しています〉

「福岡城散策マップ」は、福岡市の主だった観光案内所(博多駅・天神・博多町屋ふるさと館等)と、福岡城市民の会の事務所に備えています。

市民や来訪者・観光客に福岡城跡に足を運んでもらいたい事と福岡城が福岡市の歴史文化都市のシンボルとして活かされて欲しいと願っています。

今後当会で、このマップを活用したウォーキング・セミナーなども企画していきたいと思っています。



多間櫓

福岡城探訪

藤 金之助

最後の藩主

十一代

黒田長溥 (二)



十一代 黒田長溥
(福岡市博物館所蔵)

嘉永六年(一八五三年)六月三日、三浦半島の浦賀に、突如アメリカのペリー提督率いる艦隊が来航、幕府に対して強く開国を迫った。

この緊急の事態に驚いた幕府は全国の大名家に異例の諮問を行って広く意見を求めたが、その殆どは空威張りであったり、無気力であった。その中で群を抜いていたのは福岡藩主、黒田長溥の建白書であった。

長溥は長崎から常に情報を手に入しており、西欧の事情にも通じ、当時の日本のおかれています厳しい国際環境をよく認識していた。長溥は長文にわたる建白書のなかで、旧態依然たる鎖国政策を放棄し、開国通商への門戸を開くべしと主張。また洋式の軍艦や、大型商船の建造を急ぎ、富国強兵への道を選ぶべき

であると唱えた。

説きさき、説きさきたり長文の建白書は長溥が日頃からの考えを十分に述べた理論整然、堂々たる開国論を展開した誠に優れたものであった。ただこれを実行に移すためには国内体制の抜本的な変革が必要であったが、そこまで筆が及ばなかったのは長溥自身はあくまで幕藩体制の維持を望んでいたためである。

しかし時代の流れは激しく変革を求めてゆく。文久二年(一八六二年)、京都では朝廷の親任を得た長州藩の勢力が強くなり、五月には関門海峡を航行中の米、仏、蘭の商船を攻撃、攘夷を決行する。

このような長州の過激な動きに対し、公武合体派の公卿と組んだ薩摩藩と会津藩が突然武力をもって長州藩を京都から追放した。これを「文久政変」というが、このため三条実美ら七卿も長州へ亡命する。

これに力を得た幕府は、この時とばかり長州藩を討とうと動くが、これが国内対立となるのを恐れた長溥は、この事態をさけるべく懸命の努力を続ける。これが幕末の歴史のなかでも異彩を放つ有名な福岡藩の「長州周旋」である。永い時日と困難の末、この交渉は成功、三条以下五卿を福岡藩で太宰府に引き起こることで収まった。

幕府、その中でも強硬派の薩摩藩を説得、頑

固な長州藩を恭順まで導くというこの困難な交渉は勿論長溥の強い意志があったためだが前半は特命を受けた側近の喜多岡勇平の功績であり、後半は筑前勤皇党を代表する加藤司書や月形洗蔵らの活躍だった。

その功績を認めた長溥は加藤司書を重用することになるが、佐幕派の家老らはこれに不満、総辞職し藩内の対立が激しくなる。

藩政を握った司書は五卿の保護に力を注ぐとともに長溥に対しても、藩主の意見は尊重するも納得しがい場合は修正を求めるという意見書を出し、長溥の不快をかうが、家中の強い反感にもあう。

その結果、司書は辞任、再び佐幕派が藩政に乗り出し、五卿への冷遇となる。

慶応元年、長州で高杉晋作が挙兵、討幕へと時代が動くなか、福岡藩では勤皇過激派によるテロが頻発、長溥の側近、喜多岡勇平も暗殺された。又、長溥を幽閉するという噂なども流れ、長溥の堪忍袋の緒が切れ、勤皇派大弾圧へと発展する。この年の干支が乙丑であったので「乙丑の獄」と呼ばれた。

長溥は公武合体という信念のもと国内対立を憂慮し長州周旋に動いたが、それが勤皇派の志士たちに誤解された悲運の藩主であった。幕末の大名のなかでも高い識見を持ちながら家庭的にも七人の子供がすべて幼児で死亡するという不幸にもあった。遂には藩の贖札事件の責任を問われ、養子の長知は藩知事免官、自身は城内を出、浜の町別邸の海岸から東京へ去ることになった。五歳の孫を連れ六五歳の老公を涙ながら見送った家臣、町民は万を数えたという。明治三年八月二三日であった。

黒田長溥は明治二十年三月七日逝去した。七十七歳であった。墓は東京の青山墓地にある。

〔完〕

第50回 福岡市民の祭り

博多どんたく 港まつり

祝うたア!!
甦れ 福岡城!

◆五月三日(祝・火) 十時〜十七時
◆五月四日(祝・水) 十時〜十七時
◆舞鶴公園西広場
(福岡城西三の丸)

今年で七回目を迎える「福岡城どんたく演舞台」は、三日には、筑前今様、日韓の踊り、フラ、キッズダンス、琉球国祭り太鼓など盛りだくさんの演目。
四日は、黒田長高ご夫妻がお見えになり、黒田藩古武道、福岡藩砲術・陽流抱え大筒など福岡城演舞台ならではの特別の演目が披露されます。
ぜひ、お出かけください。
皆様も「福岡城どんたく演舞台」出演の方々と一緒に楽しんでいただけたら最高です。

藤香会について

紙面リニューアルにあたり、福岡市民の会に関わり頂いている団体を紹介いたします。

藤香会は、黒田藩ゆかりの方々を軸に福岡市に永く居住されている方も加えた会です。現在の福岡繁栄の基礎を築いた黒田如水公、長政公を初め歴代藩主の遺徳と偉業を偲び、福岡の発展を念じて活動しています。

三月二十日の如水公ご法要、八月四日長政公ご法要、二月十二日忠之公ご法要を崇福寺で執り行い、市民の皆さまにも参列いただいています。同時に講話による歴史勉強会や藩主ゆかりの史跡を巡り、見聞を広めているところです。

昨年十月には、会創設一二〇周年記念祭を行って記念碑を建立いたしました。今後これらの活動を通じて、先人の遺徳と偉業を後世に伝えてゆきたいと考えています。

福岡の

今の栄を築かれし

黒田の名こそ

永遠にとどめん



ご法要の前には必ず、ボランティアの方も含め100名以上の方々と黒田家墓所の清掃をおこなっています。

黒田如水・長政親子の九州戦跡を訪ねる

企画:NPO法人 福岡城市民の会 同行案内:事務局/野田弘信

5月21日(土) 「文祿・慶長の役」名護屋城と黒田陣屋を訪ねる

●出発:天神日銀前(8:30) 参加費:9,000円(昼食付)

豊臣秀吉は、天下統一を果たし、すぐさま海外遠征を始めます。その渡海の基地として、黒田如水が「縄張り」を行い、子の長政が惣奉行として諸侯に工事負担を指定して、わずか4~5カ月のスピード工事で名護屋城を築城しました。

【コース】 福岡天神.....黒田長政陣屋跡.....名護屋城博物館/名護屋城本丸跡(昼食)
.....前田利家・小西行長陣屋跡.....徳川家康陣屋跡.....福岡天神

6月18日(土) 九州の関ヶ原「国東半島・別府石垣原」を訪ねる

●出発:天神日銀前(8:30) 参加費:9,000円(昼食付)

慶長5年(1600)9月9日、天下分け目の関ヶ原戦を前にして、黒田如水は九州を平定し、更には天下を夢見て軍を起し中津城を進發します。西軍に組する国東半島の諸城を攻略しつつ、大友義統軍と石垣原にて合戦！これを投降させ、その後北九州全域を制圧しました。

【コース】 福岡天神.....太宰府IC.....基山PA.....宇佐IC.....豊前高田城(車窓)
.....富来城.....(昼食).....安岐城.....杵築城(車窓).....別府SA.....
.....別府・実相寺山(黒田如水本陣跡).....石垣原境川古戦場跡.....吉弘統幸陣所跡
.....大友義統本陣跡.....基山PA.....福岡天神

お申し込み
お問い合わせ

(株)西日本新聞旅行

福岡市中央区天神1-4-1
担当:高杢一彦

TEL 092-711-5518 FAX 092-711-1969

編集後記

日本列島に悪夢が襲いかかりました。衝撃極まる東日本大震災、大津波と原発事故です。呆然とテレビ画面を見入った人々は言葉を失いました。心よりお見舞い申し上げます。

年度当初より「福岡城だより」は会員の皆様、そして次世代の方々に、装いも新たに熱きメッセージをお届けしたいと思います。

会員の皆様方の投稿をお待ちしています。当市民の会に日頃お感じになっていることなどご意見をお聞かせください。

編集・発行 鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会

〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-12-15 読売福岡ビル7階
TEL 092-716-8238 FAX 092-716-8254

HPアドレス <http://fukuokajokorokan.npgo.jp/>

E-mail fukuokajo@tos.bbq.jp

【デザイン・印刷】 城島印刷株式会社

福岡城市民の会

検索

正会員(個人)

井上恭子
(※一般会員より正会員へ)
斉藤泰英

一般会員(個人)

今任芳昭
佐藤允昭
大塚清美
岸本悟

引野嘉和
小田早嗣
松尾利明
平島

新規会員名簿(平成22年12月28日)